

題字 山田昇

第46号 平成 4 年 11 月 30 日
発行 者 群 馬 県 山 岳 連 盟
〒371 前橋市大手町 1 丁目 1 - 1
群馬県庁観光課内
(0272)23-1111
TEL 集 群 馬 岳 連 編 集 委 員 会
責任者 羽 野 順 一
印刷 所 森 田 印 刷
<定価 1 部 100 円>



第二回山田昇記念杯 登山競争大会報告

総務部・理事 千 明 政 彦

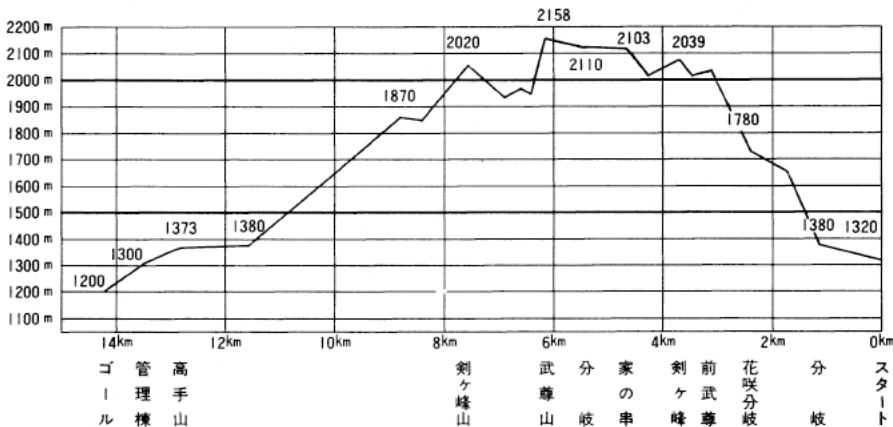
山田杯優勝の山田豊選手のゴール

平成四年九月二十七日(日)、山田昇記念杯登山競争大会も今年で第三回を数えることとなった。三回目ということでリハールは省略し、各部長、副部長および班長が一週間前にミーティングを行っての大会運営となった。前夜からの寒波でかなり冷え込んだが、それでも受付の会場には朝早くから大勢の参加選手が元気な顔を見せている。山田杯は百四十一人(参加申込数百六十四人、欠席者二十二人、一般の部へ変更一人)、三枝賞には五十八人(参加申込数六十人、欠席者二人)、一般参加者は百一十二人、役員百四十八人の総勢四百六十七人となり過去最大の大会となった。年々各部門の参加者も確実が増えている。昨年と同様に川場キャンプ場下の駐車場にて七時から開会式が行われた。田中成幸大会競技委員長の開始宣言で始まり、第二回大会覇者の千野香選手から山田昇記念杯が返還され、星野光大会会長の挨拶があり、地元川場村横坂太一村長の歓迎のこたえがあった。また高田政美競技部長より挨拶があり、選手を代表

して千野香さんが宣誓をして開会式を終了した。各選手は八台のマイクパスに分乗してスタート地点の武尊自然休養林駐車場へ向かった。山田杯の部は八時三十分スタートし、三枝賞の部が八時四十分スタートした。一位がゴールするまでに約二時間。その間キャンプ場では競技部、審判部、接待部、医療通信部とそれぞれの持ち場で孤軍奮闘、選手を迎える準備に入る。本部の無線に途中経過の連絡が入る。レースはやはり千野選手と山田選手のマッチレースとなったが、三度目にして山田豊(前回二位)選手が二時間十九秒のレコードタイムで金銀の優勝を成し遂げた。二位はこの大会を二連覇している山梨の千野香選手でタイムは二時間十七分三十六秒。第三位は神奈川の草野延孝選手で二時間十九分二十五秒であった。岳連関係者では中島剛二さん(沼田山岳会、昨年二位)が八位の二時間三十四分三十四秒、また寺田勉さん(太田山岳会)が二十八位の二時間五十九分三十七秒と健闘した。三枝賞の部では、第一位は竹淵工さん(中之条高校)で二時間三十四分四十五秒と第二回大会の記録を十分も短縮した。第二位は都丸典行さん(渋川高校)でこれも接戦の二時間三十六分八秒、第三位は小林善郎さん(桐生高校)の二時間五十五分四十四秒であった。朝から天候が崩れ、途中は吹雪いてくる悪天の中でのこの記録は非常に立派なものであった。一般参加の部は悪天のため剣

山田昇記念杯登山競争大会コース高低図

水平距離 14.12km 実測距離 14.8km 最高標高 2,158m
高低差 958m 累積高低差 1,408m



ヶ峰までは登れず、途中で引き返すほどであった。ゴールのキャンプ場では消耗しきった体を温かい豚汁が癒してくれる。そしてマスの塩焼、おでん、焼肉、りんご、ビールと今年も接待部がいろいろと準備してくれた。また今回は山田昇さんの高校時代の山岳部の仲間、現在ジャンソン歌手の石坂幸久さんが前夜から特別参加してくれた。山田さん終了した。



山田昇の友人シャンソン歌手の
石坂幸久さんの演奏



スタートのしゅんかん



三枝賞 1位(竹淵) 2位(都丸)
3位(小林) の3選手



表彰台の1位(山田) 2位(千野) 3位(草野) の3選手
三枝賞成績表

力走する女子で優勝した田村とみ江選手
山田杯成績表

順位	タイム	No.	氏名	性別
1	2時間34分45秒	510	竹 淵 工	男
2	2時間36分08秒	505	都 丸 典 行	男
3	2時間55分44秒	523	小 林 善 郎	男
4	2時間55分44秒	506	高 梨 恒 彦	男
5	2時間56分03秒	503	星 野 勝 行	男
6	2時間58分18秒	504	関 口 真 穂	男
7	2時間59分44秒	526	深 沢 賢 二	男
8	3時間14分26秒	514	藤 野 剛 正	男
9	3時間14分57秒	519	桑 原 秀 明	男
10	3時間19分34秒	517	青 木 徹	男
11	3時間24分58秒	512	石 関 隆 行	男
12	3時間32分53秒	545	戸 塚 智 博	男
13	3時間42分18秒	501	福 本 誠 志	男
14	3時間43分25秒	511	高 橋 克 行	男
15	3時間45分24秒	515	中 島 香 子	女
16	3時間50分55秒	509	大 塚 裕 男	男
17	3時間51分09秒	536	吉 野 恵 一	男
18	3時間53分02秒	539	武 藤 貞 雄	男
19	3時間53分46秒	557	齋 藤 和 行	男
20	3時間54分38秒	525	神 戸 美 香	女
21	4時間00分11秒	532	宮 崎 佳 恵	女
22	4時間00分34秒	521	齊 藤 琢 磨	男
23	4時間00分46秒	528	磯 部 健 太	男
24	4時間07分17秒	513	小 田 中 徹	男
25	4時間14分45秒	507	村 田 一 成	男
26	4時間14分45秒	531	藤 原 久 美子	女
27	4時間14分48秒	502	川 田 秀 樹	男
28	4時間19分52秒	548	吉 野 裕 樹	男
29	4時間23分29秒	516	星 野 幸 裕	男
30	4時間25分51秒	520	高 草 木 達 也	男

順位	タイム	ゼッケン	氏名	性別
1	2時間09分19秒	1	山 田 豊	男
2	2時間17分36秒	2	千 野 香	男
3	2時間19分25秒	3	草 野 延 孝	男
4	2時間24分17秒	131	辻 敏 夫	男
5	2時間26分36秒	89	田 中 一 生	男
6	2時間32分38秒	64	デニス・オコーネル	男
7	2時間33分04秒	25	松 本 博 明	男
8	2時間34分34秒	81	中 島 剛 二	男
9	2時間35分49秒	28	坂 村 優 人	男
10	2時間36分33秒	112	田 村 とみ江	女
11	2時間39分18秒	6	鈴 木 富士雄	男
12	2時間42分19秒	130	望 月 泰 孝	男
13	2時間43分36秒	162	加 藤 正 司	男
14	2時間44分26秒	91	西 脇 達 也	男
15	2時間44分41秒	42	庄 司 貞 隆	男
16	2時間48分00秒	90	寺 井 賢 一	男
17	2時間49分25秒	65	朝 倉 修 三	男
18	2時間49分26秒	55	山 口 麻 里	女
19	2時間49分31秒	161	佐 野 友 康	男
20	2時間50分08秒	66	田 中 末 広	男
21	2時間50分13秒	154	高 橋 芳 武	男
22	2時間51分08秒	124	龜 田 佳 恵	女
23	2時間53分52秒	99	宮 川 敬 一	男
24	2時間54分02秒	156	牧 田 裕 治	男
25	2時間54分21秒	46	田 中 章	男
26	2時間57分30秒	97	星 野 有 男	男
27	2時間58分09秒	10	新 井 洋 一	男
28	2時間59分37秒	108	寺 田 勉	男
29	3時間02分00秒	109	中 島 博 恵	男
30	3時間02分31秒	54	須 藤 真 男	男
31	3時間04分52秒	94	豊 島 俊 行	男
32	3時間04分59秒	82	山 田 慎 一郎	男
33	3時間05分07秒	155	鈴 木 孝 雄	男
34	3時間05分50秒	71	永 井 孝 示	男
35	3時間07分05秒	24	中 澤 徹	男
36	3時間07分17秒	110	田 中 島 勉	男
37	3時間08分34秒	29	塚 本 美 弥子	女
38	3時間10分01秒	126	肥 後 昭 彦	男

県民の日記念事業 第十六回 県民登山大会報告

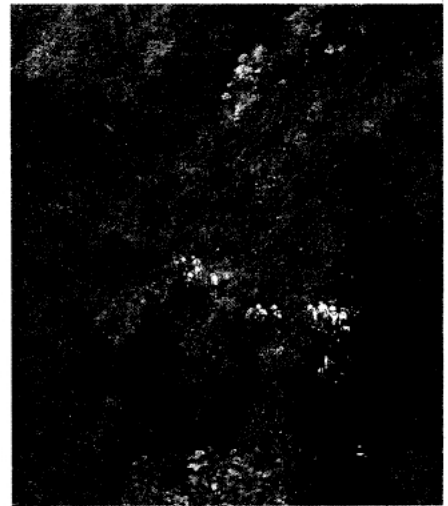
平成四年十月二十五日(日)に勢多
郡東村で第十六回県民登山大会が
群馬県山岳連盟役員が二十八名の
開催された。今年は大間々山岳会
総勢百四十六名で行われた。黒坂
が早くからコース調査、整備等の
準備をしていたので、大会も首尾
付を開始し、七時三十分より開会



開 会 式

式を挙行政美山岳連
盟副理事長の挨拶と、地元東村村
長、小林宗平氏の歓迎のことばが
あった。また東村の多大な協力に
対して群馬県山岳連盟より感謝状
が贈られ、次いで樋口宗平大会委
員長より挨拶ならびにコースリ
ーダーの紹介があり、その後は各
コースに別れてリーダーがコース説
明、注意点を話し、それぞれのコ
ースへと向かった。

コース
Aコース＝梶名桑(ワンナジョウ)
山・氷室山コース(一般向け)
歩行約五時間 黒坂石キャンプ場
→梶名桑山(一〇五・六m)→
氷室山(一五四・二m)→黒坂
石キャンプ場
Bコース＝根本山コース(一般向
け) 歩行約五時間 黒坂石キャン
プ場→十二山(一二八m)→根
本山(一九九m)→黒坂石キャン
プ場
Cコース＝地藏岳コース(健脚向



紅葉の中を登山する参加者

平成四年度 全国山岳遭難 対策協議会 水上町で開催される

期日 平成四年七月八日(水)～九
日(木)
会場 利根郡水上町「水上館」
登山における遭難事故を防止す
るため、山岳関係者や山岳遭難
対策関係者の参加を求め、山岳遭難
の原因等について研究協議し、今
後の遭難対策の具体的施策に役立
てることを目的に、文部省、警察
庁、環境庁、気象庁(社)日本山
岳協会、山岳遭難対策中央協議会、
群馬県、群馬県教育委員会、群馬
県警察本部、群馬県山岳連盟が主
催して開催された。

参加者は、全国各地の教育委員
会関係者、山岳遭難救助組織(警
察、自然公園等)の関係者、山岳
連盟・協会関係者、高等学校登山
部関係者、山小屋・山岳ガイド関
係者、大学・高等専門学校関係者
で集い、講師・助言者・実例発表
者を含む総参加者数は百三十四名
であった。

群馬県からは、第一分科会の
実例発表に吉家隆(中・高)、助言
者に中島喜代志(水上)、第二分科
会の実例発表に馬場保男(ミヤマ、
沼田警察署)、第三分科会には実例
発表者に大澤清(高体連)、助言者
が参加した。

第一分科会(社)日本山岳協会
長の山田二郎氏が「中・高の登山」
についての講義と、警察庁の三橋
義和氏が「山岳遭難事故の実態と
警察の事故防止活動」、気象庁前
橋氣象台の清水喜久氏の「対流雲
の発達(社)日本山岳協会常務理
事北田紘一氏が「日本山岳協会と
山岳遭難救助活動」、群馬県警の梅
沢孝男氏が「群馬県における登山
の現状と事故事例」について講義
をした。

講演及び講義内容の中で、最近
特に中・高の登山者が増加し、そ
れにとともに中高年者の山岳遭
難が急増している現状が紹介され
た。(次頁につづく)

技術と信用で地域社会に貢献する
総合建設業

万屋建設株式会社

取締役会長 星 野 光

本社 群馬県沼田市下之町880番地 TEL 0278(23)4648(代表)
支店 東京都豊島区東池袋4-2-7 TEL 03-985-7631

(前頁より)

中高年登山者の特徴は、登山経験からみると、若い時から登山を続けている人、中休みをして登山を再開した人、初めて登山をする人に区分され、遭難となる要因には登山技術の初歩的なミスによるもの、体力の過信による無理な行動による遭難が指摘され、さらに登山計画書の提出がなされていないことや、未組織であることなどから、この組織化が急務であることなどが、講師から上げられた。

また、前橋気象台の清水氏の講話は、夏山シーズンごろの対流雲の発生原因やその発達状況などの説明が興味を引いた。

第二日は研究協議で、三つの分科会で行われた。

第一分科会のテーマは、「中高年者の仲間づくり」と山岳団体・山岳ガイド団体等のかかわり」で、吉家氏が群馬県における中高年登山の現状と問題点について報告を行い、討議が繰り返された。

第二分科会のテーマは、「登山パーティー(大学山岳部、一般山岳会)側の救助体制と警察等の救助活動との連携について」で、沼田警察署、谷川岳警備隊副隊長の馬場氏が谷川岳における遭難事例と救助活動について報告した。

第三分科会では、「小・中・高等学校の集団登山の実施状況と安全対策について」のテーマで、高体連の大澤委員長が群馬県における学校登山活動の実態を報告した。

総務部長 女農専志

岳連内海外登山活動と

海外登山部の動き

岳連の皆様にお世話になった、サガルマータ遠征の仮報告書が六月中旬に仕上がり、一段落つきました。御支援、御協力ありがとうございました。

このサガルマータ遠征を終え、海外登山部の役員改選をしました。長い間群馬の海外遠征を引っばつてきた八木原が委員長を勇退し、副委員長であった名塚秀二(前橋山岳会)が新委員長に、副は、佐藤光由(ミヤマ、後藤文明(境町))という新体制となりました。以前同様の御指導、御協力をお願いいたします。

さて、今年の岳連関係の海外登山を三つ報告いたします。

(I) 旧ソ連

太田山岳会の赤松久宇、寺田勉の二名が、コルジエフスカヤとコミニズムの二峰に遠征した。両名とも初遠征、高度初体験ではあったが、悪天候で登頂率が低い中、コルジエフスカヤに登頂した。

(II) インド

高体連登山部の先生方が、ストックカンリ(六一五三m)に遠征した。高所初体験者が多く、登山期間も短かったが、十六人中、十人が登頂した。

(III) パキスタン

ミヤマ山岳会の小西浩文が、

ガツシャブルムI峰に遠征したが、悪天のため、健闘をなくして敗退した。

海外遠征が初めての人が多い中大変良い成果であったと思います。これから次の遠征を考えて、よい登山を続けていってほしいと思います。

今秋予定されていた、星野会長のチョオユー環着登山は、中国側の許可が出ず、来年に延期となりました。サガルマータの再挑戦も来年の冬をめざして動き始めましたが、今年より登山料が破格の値上りとなったあけく、メンバーは七名のみ、という二点の大きな問題が出てきています。現在、仕事でネパールに行っている八木原がネパール観光省と交渉中ですが、きびしい状況です。こちらは、装備の改良、隊員の資質の向上に努めています。岳連の皆様には、又御支援をお願いしますが、よろしくお願い致します。

海外登山部 佐藤光由

もたく熱心に訓練し技術の向上を図った。

又ワイヤーロープの取扱技術もマスターした。

尚、時々、リーダーの叱咤、激励の大声が谷間にこだました。有意義な一日であった。

遭対部の近況報告

七月五日、谷川岳山開きの日、恒例の夏季岩場における訓練を実施した。従来は一の倉沢でおこなってきたが、今年は東黒沢ハナゲの滝付近の岩場で、吊上げ吊下げの搬出等、天候にもぐまれ何回と

ただけの数を販売することが出来、三年間は同じ様なことを繰り返してしまいましたが、昨年あたりからややカレンターの不足がみられ、本年にいたっては完全に不足になってしまいました。

この間消費税の導入により実質的な値上りもありましたが販売価格については当初通りの据置き価格で現在に至っております。

尚本年の製作数につきましては配布直後から不足のため、これまでのPRを兼ねた新聞販売は中止とし、又県民登山大会での販売は残念乍ら出来ず、次年度のカレンダーについての増刷等今後の理事会の席や事業部で検討していきたいと思っています。

当日は日立山岳会の二名の方がオプザバーとして、我々の訓練を熱心に研修し、群馬の救助技術のレベルの高さに驚いていました。各県ともワイヤーロープ技術に力を入れてきており、当県の技術の高さが、注目の的となつています。遭対部としても、群馬の名に恥じないよう、技術向上訓練にフル回転で取り組んでいきます。

今後の日程

十二月十五日、前橋体協会館で冬山検討会を開催します。各会とも今から計画書作成の準備をよろしく願います。

遭難対策部 加藤藤夫

事業部報告

第六作目のカレンダーが出来、九月に各会へ配布し販売のお願いをしました。

製作当初は販売に苦勞をし各会の大きな協力の下に何とか製作し

「持ち帰り」を一般登山者に対し呼びかけ、その後各登山口周辺の清掃活動を行いました。

当日参加された方々には大変御苦勞様でした。

自然保護部 笠原伊勢雄

尾瀬ゴミ持ち帰り運動の実施

毎年岳連の恒例行事となつてい

る尾瀬ゴミ持ち帰り運動を今年も平成四年八月一日(土)・八月二日(日)の二日間について尾瀬が原を中心に行われました。

当日は宿泊場所の都合により、参加を二十名で打ち切りました。

内容については尾瀬が原における、ゴミ持ち帰りの啓蒙というスローガンで、第一日の八月一日は前橋を正午に出発し、十五時に片品村役場駐車場に集合し、その日は尾瀬管理保護センターに宿泊しました。

谷川岳ゴミ持ち帰り運動と安全登山の日協力

毎年行われている谷川岳ゴミ持ち帰り運動が谷川岳安全登山の日となった平成四年七月五日(日)に実施されました。

当日は自然保護部が中心となり、岳連関係十二団体から五十名の参加があり、午前三時に谷川岳登山指導センター前に集合し、センターにおいて美化袋及びバッジの配布を行い、「安全登山」と「ゴ

今年には宿泊の都合で岳連より二十名の参加となりましたが、来年度よりは宿泊の問題を何とか考え多数の団体から沢山の参加者が行けるような計画を立ててみるべきではないでしょうか。自然保護部で検討してほしいと思います。参加された方々には大変御苦勞様で

美と健康のお手伝い

ブリジストン自転車
ナショナル自転車
ホンダのオートバイ
サイクルショップ

ヤギル

前橋市下細井町139-3
TEL 0272-31-1308

有限会社 山とスキーの店 石井

Dream BOX

伊勢崎市宮子町78街区1819-1
TEL.0270-21-8025 FAX.0270-21-8026